

令和2年度 第1回今治市総合教育会議 議事録

- 1 日時 令和2年5月13日（水）
午前10時30分～正午
- 2 場所 今治市役所本館2階庁議室
- 3 出席者 今治市長 菅 良二
今治市教育委員会
教育長 田坂 敏 委員 村上 浩一
委員 篠宮 博幸 委員 西原 梨乃
委員 仁志川由香里
(事務局関係)
総務部長 矢野 隆治
総務部総務調整課長 正岡 靖彦 同課主事 越智 健太
教育委員会事務局長 村上 誠二
事務局次長（総務課長） 片上 裕之
事務局次長（学校教育課長） 大澤 誠二
社会教育課長 神野 秀夫 文化振興課長 富田 義勝
スポーツ振興課長 松本 典久 学校給食課長 越智 淑人

議題1 今治市教育振興に関する大綱について

令和3年度からの今治市教育大綱は、第2次今治市総合計画後期基本計画（令和3年度～令和7年度）の教育・文化の項目「②豊かな心と生きる力を育むまちづくり」において定める施策をもって充てることとする。

議題2 成人式について

令和4年4月1日から18歳到達で成人となるが、20歳で成人式を行う市町村が多い。今治市も今までどおり20歳で成人式を行うこととする。ただし、名称は検討しなければならない。

18歳は進学、就職の時期と重なること。一度市を出た者が成人式のために帰省し今治市の良さを再認識することによりUターンに繋げたい。

18歳選挙権が実施されているが、高校3年生の子供気分のままでの成人式に疑問がないともいえない。

議題3 不登校について

不登校は結論の出る問題ではなくて、これからも課題として、学校としても絶えず向き合っていたきたい。

(説明)

不登校の要因として、小学校では複合的なもの、また不安などの情緒的混乱、無気力、その他（保護者の放任、家庭の教育力不足など）が多く、中学校では無気力、

複合、不安などの情緒的混乱が多い。そのうちでも、いくつかの要因が絡み合った複合が最も多くなっている。

近年の傾向として、保護者の過保護、過干渉による不登校とともに、保護者の放任による不登校児童生徒数が増加している。学校教育課及び各学校においては、愛媛県福祉総合支援センター、今治警察署生活安全課、子育て支援課、生活支援課等の関係機関とも連携しながら、虐待や引きこもりの防止に向けた対策をおし進めている。困難な場合が多く、個々の事案に対して対応をしていくということが大事になってきている。

(委員の意見)

いじめから不登校につながるケースも多い。その場合には、早期解決が一番である。家庭の事情もいろいろあり複雑だが、先生、学校は大変な中よくやってくれている。

居場所がないことが不登校の要因ではないか（学校に居場所がない、友達関係がうまくいかず居場所がない、勉強がわからなくて居場所がない、先生とうまくいかなくて居場所がないなど）

集団生活になじめない子供が増えてきていて、きめ細やかな指導・対応が必要となってきた。そのような中で、学習支援員や嘱託講師の配置、校務支援システムの導入などして教員の負担を減らしてもらっている今治市独自の施策を本当にありがたいと思っている。

なにがなんでも学校に行かないと人間として落第というではなく、不登校でも大丈夫というところがほしい。

集団生活の中で自分を見つけていく、協調性を身に付けていく、そういったことは学校教育だからこそできるのではないかと考えている。ここ3年、5年ではなくて、10年後、20年後のその子の成長というか、その子が生きていけるかということに係っていくので、単純に解決するのではなくて、やっぱり生きる力を身に付ける中で、不登校、いじめがなくなるように学校教育、先生方と協議しながら取り組んでいきたいと考えている。

議題4 新型コロナウイルス感染症への各種対応について

親の不安や生活の困窮というのは、子供たちにも様々な面で大きな影響を与えている。これといった解決手段はないかと思うが、保護者や先生方をはじめ周りの大人たちが、子供たちの様子をよく見たり、子供たちの話をよく聞いたりして、一人一人丁寧に対応してほしい。

子供や家庭によってはマイナスをプラスに変えて、家族でゆっくり話す時間が増えたとか、部活や習い事で忙しかったが、子供が自分の進路などについてゆっくり考える時間がとれたとか、新型コロナ前の普段の生活のありがたさを再確認したという意見もある。

その上で今までの学習の遅れをどのように取り戻していくのかも課題だが、いっぺんに取り返すことは、子供たちにとって過重な負担になるので、取捨選択していくからは省いていくことが必要

修学旅行や少年自然の家、小中学校の文化的な行事、音楽会、体育的な大会、子

供たちが育っていく大きなチャンス、全国中学校体育大会、愛媛県の中学校総体も中止になってしまふなどやむを得ず中止になる大会や行事もあるが、感染防止ができるなら何らかの形で大会や行事を実施できたらと願っている。

学校に対しマスクの寄附もあり、感謝している。

4月の段階で保護者から今の状況では学校に行かせられないという相談を受けた。現在も心配だという声もある。初めての経験で、これが正解というものはなく、手探りでやっていかなければならないと思うが、学校再開に際し学校は素早く対応している。先生の残業時間が問題になっているが、おそらく土日もしに準備していたのかなと思う。

子供と向き合えるご家庭ばかりではなく、様々なご家庭がある。そういった家庭にいかにか手を指し伸ばすのが行政の役割である。今は終息期であるが、第2波、第3波が来るにあたって、そういう方たちを救ってあげる、オンラインで学習ができるようにするなど、親御さんが面倒を見られないご家庭のお子さんに対し差がつかないようにできないかなと思う。

通学方法については、小規模校は、分散をせずに毎日でも通える状況ですので、必ずしも市内の学校全てが足並みをそろえる必要はない。教育を受ける機会があるわけなので、第2波、第3波が来た時に、少しでも多くの子供たちが先に進んでいたら、すごくいいことである。それをいろいろ言われる親御さんもいらっしゃると思うが、機会を損失するのではなくて、少しでも、多くのお子さんが学習ができる環境にあるようにできればと思う。

コロナでも、家にいたら子供を虐待する親が増えたとか、ドメスティックバイオレンスが増えたとか、飲食店に石を投げたりとか、自分を傷つけたり、他人を傷つけたりする人の報道を見受けるが、少しでも少なくなったらいいのかなと思う。

先生方のなかでやっぱり体調のすぐれない方、はっきりいえば癌の経験者であるとか、もともと肺の関係で普通はいいけれど、コロナウイルスにかかったら死んでしまいそうな人は、今治で発生したら、その人らに配慮し、業務から外してあげることができる環境にしてほしい。

ステイホームを大切だが、12市町村が一緒になって、市内にも見どころがたくさんある。後退期に入ったこの機会にぜひ行ってもらってもいいと思う。しかし、市外には出ないように。

以上